

同窓会 たより



千葉大学看護学部・
看護学研究科同窓会

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/dousoukai/index.html>

同窓会会員の皆様へ

2025年度同窓会会長 森 恵 美 (3期)

初夏の候、皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

2024（令和6）年6月の総会におきまして、前同窓会長・岡田忍先生の後任として、第3期生の森恵美（千葉大学大学院看護学研究院特任教授）が同窓会長を拝命いたしました。1977年度に看護学部へ入学し、1987年度に看護学研究科へ進学、その後1993年度から2023年度までの30年間、看護学部・看護学研究科の教育に携わってまいりました。多くの同窓生の皆様とご縁があったことと思います。このように書面にてご挨拶できることを、大変光栄に存じます。

さて、本年、私たちの母校・千葉大学看護学部が創立50周年を迎えます。同窓会としても、千葉大学看護学部創立50周年記念事業に参画させていただいております。これらを通じて、同窓生の皆様と母校の絆を一層深める機会となれば幸いです。

同窓会では、千葉大学看護学部創立50周年記念品の制作を担当し、同窓会の予算で創立50周年記念ロゴマーク入りの記念品を準備中です。しかし、現在、同窓会の年間支出は収入の約1.5倍となっており、創立50周年記念事業や学生支援のための十分な資金確保が課題となっております。看護学研究院においても運営費交付金の減額が続き、支援が難しい状況です。既に創立50周年記念事業にご寄附くださった皆様に心より御礼申し上げますとともに、引き続き皆様からの温かいご支援をお願い申し上げます。

また、同窓会のホームページは2007（平成19）年度に開設されましたが、ITの進化に伴い、より利便性の高い形へリニューアルを検討しております。新たにマイページ機能を導入し、同窓生同士の交流や就職・キャリア支援の情報提供を強化する予定です。個人情報情報は新システムへ適切に移行いたしますので、住所やメールアドレスの変更がある方は、早めの更新をお願い申し上げます。

同窓会の会員数は3,900名を超え、準会員を含めると4,000名以上となります。これまで有志のボランティアの皆様のご尽力により運営されてきましたが、会員数の増加に伴い、運営体制にも限界が生じつつあります。そのため、今後は個人情報管理の徹底や業務の効率化を図り、会員同士の交流を促進する仕組みを整えてまいります。

さらに、学部生も同窓会ホームページを活用し、先輩方からの就職支援を受けられる環境を目指しております。看護学を志す学生への支援の重要性が増していることを踏まえ、具体的な取り組みを検討中です。皆様の貴重なご意見をぜひお寄せいただければ幸いです。

最後に、2007（平成19）年度から2023（令和5）年度までの長きにわたり会長を務められた岡田先生に、心より感謝申し上げます。岡田先生のご尽力により、学部生への修学支援をはじめ、同窓会の活動が大きく発展してまいりました。その多大なる貢献に敬意を表し、今後も副会長としてお力添えをいただけることに感謝申し上げます。

同窓会は、皆様一人ひとりのつながりによって成り立っております。近況報告や思い出話を共有し、千葉大学看護学部・看護学研究科のさらなる発展を共に支えてまいりましょう。

今後とも、同窓会の発展のため、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

看護学研究院長挨拶

千葉大学大学院看護学研究院長 増 島 麻里子

亥鼻構内には桜やレンギョウが咲きほこり、緑豊かで美しい季節となりました。

この4月より看護学研究院長を拝命しました増島麻里子と申します。千葉大学看護学部は、2025年で創立50年を迎え、4月には看護学部50期生80名を迎えました。卒業生は1975年から2024年3月までに3,961名、1979年設置の看護学研究科においては修了生1,417名を輩出しました。同窓生の皆様におかれては、昭和、平成、令和にわたる時代の要請に応じ、教育研究者や高度看護実践者、看護管理者、行政機関の看護専門職者などとして社会貢献されると同時に、それぞれ自身の人生を豊かに重ねられてきたことと拝察します。私自身も同窓生の一人であり、様々な場で同窓生と出会う機会に恵まれ、千葉大学の絆を実感してきました。千葉大学で確かな看護学を学んだ先にある未来は多様ですが、看護学部創立50年の節目にあたっては、これまでの歴史と伝統を大切にしつつ、次の50年先に続く看護学を拓く新たな一歩をふみ出せるよう尽力する所存です。創立記念事業については、「看護学の普遍と革新：未来社会への挑戦」をテーマに、森恵美同窓会会長、諏訪さゆり前看護学研究院長をはじめ教職員一同、同窓会の皆様とともに心に刻まれるような事業を企画しますので、何卒ご協力をお願い申し上げます。

2024年度の千葉大学は大きな変化のある1年でした。4月には新学部「情報・データサイエンス学部」を加え計11学部となり、大学は創立75周年、医学部・病院は創立150周年と未来へ向かう発展的な

年でした。看護学研究院においては、現職の宮崎美砂子教授が6月に永眠され、10月に「ぬのはな記念講堂」でお別れ会が開催されました。2025年3月で定年退職された正木治恵教授は宮崎美砂子教授と同期であり、ともに看護学研究科長・看護学部長、副学長も務められ、千葉大学そして看護界を牽引されてきました。お二人の先生方には、看護学の素晴らしさと難しさ、教育研究者や大学人としての在り方を教えていただきました。

悲しみと同じほどの感謝をもって前進すべく、2025年度の看護学研究院は、前述の創立記念事業に加え、千葉大学の新たなビジョン「生命、環境、そして社会へ。知の共鳴で未来を拓く千葉大学」とリンクさせながら、看護学の発展をグローバルに牽引する人材を育成することにより、人々の「よりよく生きる」に貢献し、日本最大規模の拠点としての役割を果たしてまいります。人材育成の1つの要である大学院では、将来の教育研究者、高度看護実践者を目指す方が学びやすいようオンラインによる科目も充実させ、遠方で勤務する社会人も多く入学するようになりました。博士前期・後期課程ともに、全国から集う大学院生は、看護系大学4年次生からのストレート進学者、臨床経験豊富な看護管理者や高度実践者、大学の教育研究者など非常に幅広い層の方々が構成されています。多様かつ多くの大学院生が同一科目を履修し、相互交流することで、大学院生のみならず教員も新たな気づきや研究の原動力を得て、知が生みだされています。総合大学ならではの全学的な「大学院共通科目」が整備されてきたことも昨今の特徴です。ぜひ同窓生の皆様も人生の選択肢の一つとして、再び学修を深めることを視野にいれていただければ幸いです。

亥鼻構内で多くの同窓生の皆様とお会いできる日を楽しみにしております。

2024年度 総会報告

2024年6月22日（土）14時40分から、オンライン総会を開催しました。

総会では、会長挨拶の後、各委員会の活動報告として、総務委員会から卒業生3名と準会員4名に対する学術集会参加費の助成、名簿・たより委員会から同窓会名簿の発行中止とそれに伴う規約改正、広報・渉外委員会からホームページ更新等についての報告があり、会計担当から2023年度決算が報告されました。

2024年度議案では、岡田副会長から2024年度活動方針の提案、各委員会の活動計画として、総務委員会から入会手続き等におけるオンライン手続きの開始、名簿・たより委員会から同窓会たよりのオンライン配信に向けた準備、広報・渉外委員会からオンライン企画の開催等について説明があり、これらの活動に対して2024年度予算案が提案され、承認されました。

また、審議事項では、森会長・岡田副会長から2025年に看護学部創立50周年を控えていることの情報提供があり、50周年記念事業には同窓会も参画していく方針であることが説明されました。森会長から、50周年記念事業に向けたアイディアの募集、準備委員の自薦・他薦について提案がなされ、理事・役員間の審議のもとで企画委員会を立ち上げ、準備を進めていくことで承認を受けました。

2024年度オンライン総会へのご参加やご意見をくださり、誠に有り難うございました。

千葉大学校友会 **Curio** が **Facebook** に移行します

千葉大学校友会は学部同窓会会員、教職員、在学生等を会員として、千葉大学及び各学部同窓会の発展に寄与し、会員相互の親睦・情報交換を図ることを目的に2002年に設立されました。

千葉大学校友会では卒業生の皆様をはじめ、千葉大学を応援して下さる皆様へ情報発信を行うため、「千葉大学校友会Facebook」を開設していますので、ぜひフォローをお願いします。



千葉大学校友会 URL

<https://www.facebook.com/ChibaUnivAlumni/>



お問合せ先 千葉大学校友会事務局
koyukai@office.chiba-u.jp

資料 1 2024年度千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会
決算

※ 1 予算との比較（計算式）収入 「決算－予算」、支出『予算－決算』、△表記⇒マイナス、無印⇒プラス

正会員の収支

項 目		予 算	決 算	予算との比較※1
収入の部	計	5,680,372	5,801,019	120,647
1. 会費	計	5,680,372	5,801,019	120,647
1) 繰越金		4,744,272	4,744,272	0
2) 2024年度新入会員終身会費（12,000円×88名） 内訳：学部卒業生80名 修了生8名		936,000	1,056,000	120,000
3) 利子		100	747	647
2. 寄付	計	0	0	0
1) 名簿購入時寄付		0	0	0
3. 名簿委員会	計	0	0	0
名簿代振込（3,000円×0件）他		0	0	0

支出の部	計	5,680,372	5,801,019	△ 120,647
1. 理事会	計	484,000	271,045	212,955
1) 会議費		18,000	0	18,000
2) 交際費		230,000	130,800	99,200
内訳： 校友会費（50,000円） 慶弔金（19,800円）※お別れの会・退官記念品・受賞お祝い等 亥祭祭への寄付（50,000円） 学部オープンキャンパス運営補助（支出なし）				
3) 準会員への支援		100,000	12,000	88,000
内訳： 学部学生への学術集会参加費助成（2024年度2件助成）				
4) 千葉大学附属図書館亥祭分館への寄付		100,000	100,000	0
内訳： 看護系専門図書寄贈				
5) 人件費（事務作業費1,100円×10時間）		11,000	0	2,000
6) 通信費（同窓会用Zoom年間ライセンス契約費）		23,000	27,585	13,415
7) 雑費（振込手数料等）		2,000	660	17,340
2. 総務委員会	計	41,000	2,200	38,800
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		18,000	0	18,000
2) 郵送費（事務連絡通信費）		6,000	0	6,000
3) 人件費（事務作業費1,100円×1時間）		11,000	1,100	9,900
4) 消耗品費（評議員連絡用封筒・紙代・印刷等）		5,000	1,100	3,900
5) 雑費（振込手数料等）		1,000	0	1,000
3. 名簿・たより委員会	計	1,183,573	1,155,109	28,464
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		27,000	0	27,000
2) 名簿制作費（今年度実施なし）		0	0	0
3) たより印刷発送費		964,573	990,381	△ 25,808
4) メンテナンス・データ処理		135,000	141,746	△ 6,746
5) 個人票関係費（督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代）		30,000	20,947	9,053
6) 人件費（事務作業費1,100円/時間）		22,000	0	22,000
7) 郵送費（名簿購入者への郵送等）		2,000	0	2,000
8) 雑費（振込手数料等）		3,000	2,035	965
4. 広報・渉外委員会	計	170,000	95,080	74,920
1) 会議費（交通費・茶菓子代）		30,000	0	30,000
2) ホームページ更新費		45,000	73,204	△ 28,204
3) 印刷費（同窓会企画周知用チラシ印刷）		55,000	15,511	39,489
4) 渉外費		25,000	5,000	20,000
内訳： 同窓会企画謝金※オンライン企画予定（謝礼5,000円×1名） 同窓会企画交通費※オンライン企画のため支出無し 入学記念品作成代※2021年度に作成のため無し（クリップボード500個）				
5) 消耗品費		1,000	0	1,000
6) 人件費（事務作業費1,100円×時間）		11,000	0	11,000
7) 郵送費		1,000	210	790
8) 雑費（振込手数料等）		2,000	1,155	845
5. 50周年記念事業助成金	計	1,000,000	0	1,000,000
6. 予備費	計	2,801,799	4,277,585	△ 1,475,786
1) 次年度への繰越金		2,801,799	4,277,585	

2024年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会の会計監査を実施した結果、
収支共に正当であることを認めます。

2025年4月7日
監査
和佳淑子
小川純子

資料 2 2025年度千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会
予算(案)

項 目		予 算
収入の部	総計	5,275,588
1. 会費	計	5,272,588
1) 繰越金		4,312,488
2) 2024年度新入会員終身会費（12,000円×80名） 内訳：学部卒業生76名 修了生4名		960,000
3) 利子		100
2. 寄付	計	0
3. 名簿委員会	計	3,000
名簿代振込見込み（3,000円×1件）		3,000

支出の部	総計	5,275,588
1. 理事会	計	485,000
1) 会議費（理事会活動手当）		18,000
2) 交際費		230,000
内訳： 校友会費（50,000円） 慶弔金（70,000円）※退官記念品等含む 亥祭祭への寄付（50,000円） 学部オープンキャンパス運営補助（60,000円）		
3) 準会員への支援		100,000
内訳： 学部学生への学術集会参加費助成（上限10,000円×10件）		
4) 千葉大学附属図書館亥祭分館への寄付		100,000
5) 人件費（事務作業費1,200円×10時間）		12,000
6) 通信費（Zoom年間契約費）		23,000
7) 雑費（振込手数料等）		2,000
2. 総務委員会	計	42,000
1) 会議費（委員会活動手当）		18,000
2) 郵送費（事務連絡通信費）		6,000
3) 人件費（事務作業費1,200円×10時間）		12,000
4) 消耗品費（評議員連絡用封筒・紙代・印刷代等）		5,000
5) 雑費（振込手数料等）		1,000
3. 名簿・たより委員会	計	1,185,573
1) 会議費（委員会活動手当）		27,000
2) たより印刷発送費		964,573
3) メンテナンス・データ処理		135,000
4) 個人票関係費（督促ハガキ印刷発送費、後納郵便代）		30,000
5) 人件費（事務作業費1,200円×20時間）		24,000
6) 郵送費（名簿購入者への郵送代等）		2,000
7) 雑費（振込手数料等）		3,000
4. 広報・渉外委員会	計	846,000
1) 会議費（委員会活動手当）		30,000
2) ホームページ作成・更新費		500,000
3) 印刷費（同窓会企画周知用チラシ印刷）書面総会のため無し		0
4) 渉外費		300,000
内訳： 同窓会企画謝金※謝礼5,000円（書面総会のため無し） 同窓会企画交通費（書面総会のため無し） 入学記念品作成代（クリップボード等予定）		
5) 消耗品費		1,000
6) 人件費（事務作業費1,200円×10時間）		12,000
7) 郵送費		1,000
8) 雑費（振込手数料等）		2,000
5. 50周年記念事業関係実施費（記念品作成・郵送費等）	計	500,000
6. 予備費	計	2,217,015





2025年度同窓会総会のご案内

新緑の候、会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。この度のご案内では、2025年度同窓会総会について、書面総会として実施させていただくことをご報告申し上げます。

2025年度同窓会総会では、総会資料に基づく書面総会として、総会議事に対する表決をいただきます。多くの皆様のご参与とご回答をお待ちしております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

【総会議事】 *総会議事として以下の資料を掲載してあります。内容をご確認のうえ、表決についてお知らせください。

- ・2024年度報告：活動報告（別添資料）、決算報告（資料1）
- ・2025年度議案：活動方針、新評議員案（資料3）、新委員会案（資料4）、活動案（別添資料）、予算案（資料2）
- ・審議事項：看護学部創立50周年事業における同窓会の方針について（活動方針・予算案を参照ください）

*総会議事に対する表決に関しまして、総会資料に掲載するWEBページのQRコードにアクセスいただき、8月31日（日）までに
ご回答ください。期日までのご回答がない場合は、承認とさせていただきます。

WEB上でお答えいただいた表決を以って、審議を進めさせていただきます。議事に対するご意見がございましたら、〈ご意見欄〉
へのご入力をお願いいたします。どうぞ宜しくお願いいたします。



2025年度総会議案

2025年度の活動方針については会長の「ご挨拶」をご参照ください。2024年度決算報告書は資料1に、2025年度予算案は資料2に示します。また、新役員・評議員案を資料3、新委員会案を資料4に示しました。評議員会から、会長に森恵美氏を推薦します。また、副会長に岡田忍氏、石橋みゆき氏、丸山優氏を推薦します。

資料3 2025年度 千葉大学看護学部・看護学研究科同窓会 新役員・評議員案 （ ）は卒業期

会 長 森 恵美（3）	13期 常田 千佳 末永 由理	28期 鈴木 悟子 宮川 祐子	41期 川末菜央子 松村 彩
副会長 岡田 忍（3）	14期 石橋みゆき 加藤美江子	29期 松岡 大樹 太田 愛	42期 小川 義弘 小田桐映舞
石橋みゆき（14）	15期 大塚 千春 飯野 理恵	太田 潤	43期 加藤美香子 峰木 瞳
丸山 優（21）	16期 新井 典子 飯島 久美	30期 佐野 元洋 渡邉 賢治	44期 小川 華歩 原田 千聡
評議員	17期 北島 美奈 松林 美子	31期 屋久 祐介 吉田 真美	45期 佐々木康乃 高取 志保
1期 伊藤 隆子	18期 神津 三佳 中嶋 秀明	32期 山崎由利亚 橋内 伸介	46期 井上 真緒 田代 真子
2期 田中 裕二 中村 伸枝	永田亜希子	33期 伊藤真理子 松戸 麻華	47期 白井 咲貴 杉本那菜花
3期 岡田 忍 森 恵美	19期 藤本 紀子 齊藤 千品	34期 青木 美和 能川 琴子	修了生 仲井 あや
4期 島田 尚江	20期 長瀬明日香 渡邉 美和	後藤 靖江	
5期 酒井 郁子 本田 彰子	21期 菅谷 綾子 時田 礼子	35期 荻野穂奈美 霜村 菜奈	監 事 和住 淑子（10）
6期 児玉三枝子 遠藤 恵子	22期 山下 亮子 高橋 良幸	田中 貴大	小川 純子（15）
7期 亀崎 路子 北川 公子	23期 長谷川智子	36期 川島 悠佳 加瀬竜太郎	会 計 岩瀬 靖子（21）
8期 湯浅美千代 山倉 美典	24期 小川 俊子 秋山 愛	37期 工藤ひかり 田近 祐子	山崎由利亚（32）
9期 林 ひろみ 塚田 真澄	村山 陽子	38期 富田 千尋 矢崎 萌子	佐々木ひろ（34）
10期 錢 淑君	25期 伊藤 明子 松本美佐子	39期 森元 花織 大和田理恵	
11期 野崎 章子 坂上 明子	26期 鈴木 和也 内海加奈子	池田 結	
12期 末永 香 石丸 美奈	島村 敦子	40期 澤本 美冴 黛 瑛里香	
河部 房子	27期 岡原 健史 鉄矢 朋子	櫻庭 唱子	

資料4 2025年度 千葉大学看護学部・研究科同窓会 新委員会案 （ ）は卒業期

総 務 委 員 会	委 員 長	中水流 彩 (24)					
	副 委 員 長	小川 俊子 (24)		佐野 元洋 (30)			
	委 員	白井 智子 (24)		坂井 文乃 (33)		櫻庭 唱子 (40)	
名簿・たより委員会	委 員 長	雨宮 歩 (26)					
	副 委 員 長	有松 夏子 (27)					
	委 員	野崎 章子 (11)		永田亜希子 (18)		秋山 愛 (24) 松戸 麻華 (33)	
広報・渉外委員会		松村 彩 (41)		仲井 あや (修)			
	委 員 長	田中 貴大 (35)					
	副 委 員 長	佐藤 太一 (35)					
	委 員	加藤美江子 (14)		神津 三佳 (18)		時田 礼子 (21) 山下 亮子 (22)	
		武川 美樹 (35)		沓澤 夏菜 (40)		坂口 葵 (40)	

学術集会参加報告

平成25年度より、学部生の準会員に対して学術集会参加費を助成しています。また、卒後1年以内に卒業研究を発表する会員の学術集会参加費を助成しています。2024年度は2名に対して助成しました。2025年度も助成を継続し、多くの同窓生が学術集会に参加できるよう広報に力を入れていく予定です。

助成対象者	会員／準会員	学術集会名
阿部日向子 さん	会員(46期生)	日本地域看護学会第27回学術集会
瀬戸井彩希 さん	準会員	千葉県精神科リハビリテーション研究会 第8回研究発表会

宮崎美砂子先生を偲んで

千葉大学看護学部4期生であり、千葉大学大学院看護学研究院の現役教授であられた、宮崎美砂子先生が、令和6年6月25日（火）にご逝去されました。脳裏には常に宮崎先生の笑顔が浮かびます。宮崎先生から頂いたものを胸に、これからも進んでまいりたいと思います。

感謝しかありません

21期 時 田 礼 子

千葉大学大学院看護学研究院の1階にある、宮崎先生のお部屋に行ったら笑顔で迎えてくれる、と今でも思います。しかし、実際にはもう会うことはできません。「これを書くことで、気持ちに一区切りをつけなければいけない。もう二度とあの笑顔には会えないことを受け入れるしかない。」と、依頼を引き受けました。

私は、学部生・大学院生・助教・研究グループと通算22年間、宮崎先生にお世話になりました。学部生の時は、宮崎先生はまだ准教授（当時は助教授）で、正直なところ「まじめな」先生という印象のみでした。8年間保健師として仕事をした後大学院を受験したいと思い、改めて相談に伺った時の印象もあまり残っておらず…大学院に入学しても、博士前期課程の時は、とにかく多忙な印象で…こんなことを書く宮崎先生に叱られてしまうかもしれません。

博士前期課程修了後、千葉大学看護学部地域看護学の助教となりました。そこからは、宮崎先生の素晴らしさしか感じませんでした。中でも私が教わった姿勢は3つです。

1つ目は「物事に真摯に向き合い、妥協しない」という姿勢です。研究も教育も、どんな些細なことでも、宮崎先生は妥協しません。この程度でもよいのでは…と思っているうちは、決してOKが出ません。宮崎先生ご自身が泣きながら、私を叱ったこともあります（こんなことをされているのは私だけでは…）。私が自分自身に妥協していることを見透かしていたのだと思います。覚悟を決めてやり抜くと、初めてOKが出ます。そしてやはりよい成果が生まれます。「ここまでできる」と、私の力を見極めて到達点を設定し、私の力を信じて指導してくださったのだと思います。宮崎先生ご自身が研究等に取り組む時も、絶対に妥協しません。宮崎先生ご自身の姿を通して、多大な影響を受け、多くの学びを得ました。

2つ目は「『看護』全体を考える」です。国の仕事をたくさん引き受けておられ、日本全体、時にはグローバルな『看護』の話をよくしてくださいました。専門は公衆衛生看護学ですが、そこにとどまらず、未来の『看護』を見据えていました。これらの話はとても楽しく、自分にはない視点ばかりで、この話を聞く時間や宮崎先生の姿勢がなければ、今の私の教員としての考えはつくられなかったと思います。財産です。

3つ目は「人の話を最後まで聞く」です。単純なようで、とても難しいことです。宮崎先生は、どんなに拙い言葉であろうと、相手が話し終わるまでじっくりと耳を傾けてくださいます。最後まで聞き終わった後に、核心を突くひとことを放ちます。ただただすごい。私の拙い文章では伝わらないのが悔しいです。

小洒落たものが大好きで、マイケル・ジャクソンが大好きで、テディベアが大好きで、仏像が大好きな宮崎先生。今は好きなものに囲まれてゆっくりお過ごしでしょうか。いやきっと、好きなものを愛でながらも、相変わらず妥協しない姿で研究に邁進している気がします。

宮崎先生と過ごした22年間は、何物にも代えがたいものとなっています。宮崎先生の期待通りに育っているかはわかりませんが、あの世で再会した時に「頑張ったわね」と、笑顔で迎えていただけるように、看護を好きな者として、保健師を好きな者として、これからも研鑽を積みみたいと思います。

宮崎先生、本当にありがとうございました。

地域保健における災害対策施策を支えてくださった宮崎美砂子先生

厚生労働省保険局国民健康保険課 主査

36期 榊 原 のぞみ

宮崎先生の訃報をお聞きしたのは、暑い夏の日、避暑のために私の大好きな上高地に向かって道中でした。衝撃とともに、大きな喪失感に襲われました。私の感情とリンクするように、到着した日はどんよりとして終日雨が降っていました。訃報を聞いてから、宮崎先生との思い出がひとつひとつ思い出され、現実を受け止めるまでに時間を要したことを覚えています。翌日は、前日とはうって変わり、上高地の緑が良く映える青空に恵まれました。素晴らしい景色を楽しみながら、自分の気持ちも整理されたように思います。

宮崎先生とはじめてお会いしたのは、学部時代の地域看護学の講義でした。お恥ずかしながら、保健師の役割について全く知らずに入学した私であっても、保健師の役割やその必要性について、凛としたお姿で、淡々としつつも熱のこもった口調でお話される宮崎先生の姿に、無意識に引き込まれたことを覚えております。

宮崎先生に大変お世話になりましたのは、卒後8年目、現在の職場である厚生労働省に入省した後でした。初めて配属された場所は、保健師の施策を担当する健康局健康課保健指導室でした。看護師としての現場経験や大学院での研究を経て、施策への課題を感じ入省した厚生労働省でしたが、保健師の経験もなく、保健師の業務について真っ正面から関わるのは国試ぶりという状況に加え、初めての行政の仕事ということもあり、入省直後は毎日不安だらけで右往左往しておりました。保健師に関わるたくさんの事業や厚生労働科学研究の担当となっている中、災害時の保健活動に関する厚生労働科学研究の研究者

の中に、宮崎先生のお名前を見つけました。不安な毎日の中で、故郷に戻ったような気分で、とても安心したことを覚えています。当時の私は、藁にもすがる思いで、不眠ながら千葉大学看護学部卒業生であることをご挨拶させていただきました。宮崎先生は、卒業生が活躍していることを嬉しく思うとお返しくださいました。その後も、厚生労働科学研究の班会議等を通して関わらせていただきましたが、宮崎先生がいらっしゃる場では、少し心に安心感を覚えながら業務を進めていたことを思い出します。

厚生労働省では、災害対策に関する施策を保健・医療・介護・福祉等、様々な領域で実施・検討しておりますが、特に宮崎先生には、災害時の地域保健、主に保健活動について大変お世話になりました。災害対策については、様々なところで研究されておりますが、特に地域保健について継続的に研究等に取り組んでいただける研究者の先生はあまり多くなく、その観点でも、宮崎先生は大変ありがたい存在であったと認識しております。厚生労働省の地域保健における災害対策についての事業や研究を遡ると、東日本大震災後から、宮崎先生には様々なところでお世話になっておりました。近年、厚生労働省で作成された地域保健における災害に関するマニュアルやガイドラインの一覧を見ても、半数以上が宮崎先生に関わっていただいたものでした。私が関わらせていただいたのは冰山の一角にも満たないほんの一部で、地域保健における災害対策は、宮崎先生にこんなにも支えていただいたのだと、感銘を受けました。

その中でも、当方が関わらせていただいた厚生労働科学研究は、令和4年度厚生労働科学研究補助金「自治体における災害時保健活動マニュアルの策定及び活動推進のための研究」¹⁾です。宮崎先生には研究代表者を務めていただきましたが、中でも、全国の自治体を対象とした災害時保健活動マニュアルの策定・活用状況の実態調査を担っていただきました。都道府県、保健所設置市、市町村を対象とした郵送自記式質問紙調査を実施いただき、調査対象が非常に多い中、その回収率は都道府県本庁85.1%、保健所設置市83.9%、その他の市町村46.7%という、大変高い回収率の調査となりました。その結果から、市町村の災害対策における都道府県からの支援の必要性についての課題が抽出され、今後の施策に資する大変貴重なデータをいただいたものと存じます。調査結果についても大変丁寧にまとめていただき、今、違う部署に異動した中で拝見しましても、未だに新たな学びを得られる内容に仕上げていただいております。宮崎先生に残していただいた功績は、厚生労働施策において大変貴重なものとなり、これまでのみならず、今後の施策にも活かされるものと存じます。

厚生労働省で働く中で、今後も、宮崎先生の功績に触れる機会が多くあるかと存じます。宮崎先生のご冥福をお祈りし、残して下さった多大な功績を無駄にせぬよう、今後もよりよい厚生労働施策の検討に取り組んでまいります。

参考文献

- 1) 厚生労働科学研究成果データベース

<https://mhlw-grants.niph.go.jp/project/166028>

宮崎先生を偲んで

名古屋大学 DNGL修了生 中 島 麻 紀

宮崎美砂子先生は素晴らしい研究者でもあられたと存じますが、やはり素晴らしい教育者であられたと存じます。

私が宮崎美砂子先生より直接の指導を賜ったのは、災害共同専攻の博士後期課程の途中からでした。研究半ばの分析からの指導であったので、難しい部分もあったかと存じますが、宮崎先生は、私の言葉、そして対象者の方の言葉をいつも丁寧にくみ取り、一緒に一歩ずつ研究を進めて下さいました。宮崎先生から学ばせていただいたことは多くありますが、特に質的研究を遂行する中で、宮崎先生の使われる言葉の美しさにいつも魅了されていました。宮崎先生からは、美しくそ

して他者に分かりやすい言葉の使い方を教えていただきました。その貴重な学びは私自身の財産となっております。宮崎先生のお部屋で、副指導の佐藤奈保先生とともに、3人で研究の話をする時間はとても貴重で、とても充実した時間でした。時に研究の話から脱線することもありましたが、気付くと再び研究の話に戻っており、先生は少しの会話の糸口から、概念へのお話につなげて下さったり、関連書籍をすぐに教えて下さったり、先生の膨大な確かな知識にいつも感嘆しておりました。また、対象者の裨益になることをいつも念頭に置かれていました。いつ宮崎先生のお部屋を訪ねても、穏やかにあたたかく迎えて下さいました。あのとてもあたたかい空気が流れる宮崎先生のお部屋にもう先生がいらっしゃらないのは今でも信じられません。

宮崎先生は大変お忙しく、様々なお仕事を抱えながらも、決してそんな素振りも見せず、いつどこでお会いしても穏やかに接して下さり、先生にお会いすると、とてもあたたかい気持ちになり、研究活動にも前向きになることが出来ました。宮崎先生は、ご自身の経験談をまじえながら、豊富な看護知識を、実務に繋がるようにお話ししてくださいました。そして共同災害看護学のゼミの合間には、趣味のお話や美味しい食べ物のお話を楽しくお話しして下さっていました。趣味や食べ物について話されるときの、とても素敵な宮崎先生の笑顔は、いつもゼミ生の心を癒して下さっていました。また、地域住民の方に災害看護に関する活動をゼミ生と行った際に、「皆さんやっぱり、看護職ですね、看護が好きですね、とても輝いていましたよ」と仰って下さったことがとても印象に残っています。活動後に、先生お勤めの美味しいランチをみんなで食べたことは、とても大切な思い出です。

私が大学院博士後期課程を修了したのは、COVID-19の感染拡大当初であり、全体での大学院修了式は中止となり、残念な気持ちを抱えていたのですが、宮崎先生をはじめ、共同災害看護学先生の先生方、在校生の皆さんがとてもあたたかい修了式を開催して下さいました。宮崎先生は、修了をととても喜んで下さり、研究を諦めず進めていったことへの労いとともに、今後の災害看護学の発展に寄与することを期待しているといったお言葉をかけて下さいました。宮崎先生と出逢い、素晴らしい看護教育を知ることが出来たので、自分自身も大学院修了後に教員の道に進むことが出来ました。大学院修了後は直接お会いする機会を中々持つことが出来なかったことがとても悔やまれますが、メールでのやり取りでは、いつもこちらの体調を気遣って下さり、研究や教育に関する近況について、あたたかく聞いてくださいました。ご自身の体調が悪い中も、メールを丁寧に返して下さい、感謝の気持ちでいっぱいです。これから、宮崎先生と様々な活動を一緒にできる、先生に学んだことを生かして、先生のご期待に応えられるように活動していきたいと思っていたので、宮崎先生とのお別れは本当に、本当に残念でなりません。宮崎先生のお別れ会で、先生の弟様が、先生が「悔いはない」、と仰っていたと話されたことがとても心に残っています。最後の最後まで、看護活動に真摯に向き合われたからこそのお言葉だと感じました。宮崎先生のような素晴らしい看護教育者、研究者を目指すにはとても道が遠いですが、先生の凛としたお姿に少しでも近づくことが出来るように、私自身日々悔いが残らないように精進していきたいと思います。

宮崎美砂子先生を偲んで

15期 飯 野 理 恵

令和6年10月12日、秋晴れの日、宮崎美砂子先生のお別れの会に、全国から約350名の方が参列されました。教え子、同僚、自治体職員、研究者、保健師仲間など、世代も立場も異なる方々が集い、それぞれが先生との思い出を語り合い、感謝を胸に抱いておられました。どんな時も変わらぬ笑顔で、「あなたらしくていいのよ」と言って下さった先生の言葉が、今も多くの人の心に残っているのだと思います。「療養休暇をとって、3か月したら戻ってくるね」と話しながら、ご逝去される6月25日の直前までお仕事をされていました。宮崎先生らし

いと思う一方で、あと数か月で定年退官というときに、後輩の自分に何かできることはなかったのかと悔やまれます。

宮崎先生は、大学院生時代の私にとっては憧れの先輩であり、教員としては尊敬する上司であり、いつも優しく見守り背中を押してくれるお姉さんのような存在でした。宮崎先生は、いつも分かりやすく物事を教えてくれましたし、導いてくれました。先生はいつも、迷っている人に「答え」を与えるのではなく、「自分で気づけるまで待つ」という姿勢で接しておられたように思います。それがどれだけ尊く、難しいことか、年を重ねるほどに実感しています。

先生の人柄を語るうえで欠かせないのは、誰に対しても変わらぬまなざしで接してくださったことです。相手の肩書きや経験に左右されることなく、その人が今どんな状況にあるのかを受け止め、さりげなく背中を押していただきました。先生に励まされ、自分らしく歩み出せた卒業生・修了生は数え切れません。

穏やかで、いつも笑顔を絶やさず、めったに怒ることはない先生でしたが、重要な場面では、ピンと一本筋の通った言葉で場を引き締める力も持っておられました。平成28年（2016年）に開催されたEAFONS（東アジア看護学研究者フォーラム）では開催大学代表として職務を全うされました。7年ぶりの日本での開催の大きな国際学会であり、宮崎先生はもちろん、関わる教員全員が重い責任感と緊張感

の日々でした。その時、宮崎先生が皆に向けて静かに、しかし力強く「気を確かに」と言葉をかけてくださった場面は、今でも忘れられません。あの一言に、緊張のなかにも希望と覚悟が宿りました。先生の生き方、教え、そしてまなざしは、私たちのなかに確かに受け継がれています。

先生の最期を思うとき、まだ「早すぎる」と感じる気持ちは正直拭えませんが、でも一方で、先生が遺してくださったものの大きさに、ただただ感謝の念が湧いてきます。

心より感謝と敬意を込めて、宮崎美砂子先生のご冥福をお祈り申し上げます。



特集

退官される先生からのメッセージ

正木 治恵

親愛なる同窓生の皆様へ

長年にわたり教壇に立ち、皆様の成長を見守ってきた私ですが、いよいよ定年退職の時を迎えました。この機会に、心からの感謝と喜びを込めて、皆様にメッセージをお送りいたします。

まず、私の人生において最も価値ある経験をさせていただいたことに、心から感謝申し上げます。皆様一人一人との出会いは、私にとってかけがえのない宝物です。教室は単なる学びの場ではなく、私たちが共に成長し、夢を育む特別な空間でした。

皆様と過ごした日々を振り返ると、笑顔あふれる瞬間や、時には困難を乗り越えた経験など、数えきれないほどの思い出が蘇ってきます。講義・演習を通じた皆様からのフィードバック、臨地実習での受け持ち患者さんとの関わりを通じた学生さんの学び、そして真摯にがむしゃらに研究に取り組む大学院生の姿勢に、私自身も多くのことを学ばせていただきました。私は自身のテーマである慢性疾患看護の領域において、「病と共に生きる」とは、を探究する過程で慢性疾患を持つ対象者から多くのことを教えられ、看護学の教育者として育てられました。そして老人看護学の領域において、「老いを生きる」とは、を探究し、自身の老いを重ねながら看護学の研究者として生きています。まさに、「育て、育てられ」「生かし、生かされ」た経験です。

4,000人にのぼる学部生・卒業生や、共に探究した大学院生・修了生には、看護学部・看護学研究科での学びが、皆様の人生の中で光り輝き、大きな力となることを願っています。看護を専門とする者としてどうか自信を持って前進し、素晴らしい未来を切り開いてください。

看護学部では素敵な方々に多く出会いました。その出会いがあったからこそ、今の私があります。山口覚太郎先生、野口美和子先生、横田碧先生、そしてたくさんの愛ある恩師から多くを学びました。看護学部4期生の同期は、同僚として、そして看護教員の仲間として互いに支え合いながら切磋琢磨してきました。お一人おひとりからいただいた言葉、そして笑顔が、私の中に根付いていて、時には温かく見守り、時には鼓舞してくれます。私の人生を形作って下さった皆様に、心より感謝申し上げます。

看護学部の皆様へ

“くりかえし原点、くりかえし未来。”

無印良品等のコピーライターである小池一子氏の言葉です。小池氏

は現在89歳、今なお現役クリエイティブディレクターとして精力的に活動されています。今年3月末で定年を迎えた私から看護学部にするメッセージとして、この言葉を選びました。

千葉大学看護学部が設立50周年を迎える今、“原点”の重要性を認識しつつ、これから訪れるであろう“未来”を見据えて熟慮し、判断していく、そしてそれをくりかえし行っていくことの大切さを身に染みて感じます。この言葉の発信者の、89歳という後期高齢者ながらも若い人たちと共にクリエイティブに物を作り続けている生き方にも感動しています。

私にとって看護学部の原点は、看護の実践知を科学的に探究し、看護学を構築していくことでした。平たく言うと、看護で大切にすべきことを学問にしていくことです。それは看護学の独自性であり、実践科学としての要素で構成されるものと考えています。当初より看護学部はナースサイエンティストの育成を目標に掲げてきました。私が看護学部教員になったばかりの頃、ある恩師にいただいた言葉があります。それは、「看護学部設立当初の看護学の教員達は、何もない原野を切り拓き、一本の道を開いた。今後あなた達はその開かれた道を舗装して一本の道路にしていくことですよ」と。看護で大切にすべきことを体験を通して修得し、それは何かを探究し、議論を経て言語にしていくこと、このプロセスの徹底であったように思います。それは今に至るまで繰り返しています。

現在、ケアサイエンスという、従来看護が大切にしてきたものをサイエンスの枠組みで捉え直し、学際的に取り組む道筋が提示されています。まさに看護学を専門とする者にとってチャンスではないでしょうか。国立の総合大学の中に凛として存在する看護学部、その組織的強みは何物にも代えがたいものです。私もしばらくは千葉大学の全学運営に携わりながら、看護学部を応援し続けます。背後には同窓会も控えています。この強みを活かし、躊躇することなく前進してください。

最後に

千葉大学看護学部の教師としての日々は終わりを迎えますが、皆様との絆は永遠に続くものと信じています。今後も皆様の成功と幸せを心よりお祈りしております。どうぞお元気で、そしてまたどこかでお会いできる日を楽しみにしています。

会員情報の変更について

★メールアドレスのご登録のお願い★

次年度より、同窓会たよりが郵送ではなくメール配信となります。

同窓会たよりの印刷発送経費が、会員数の増加や印刷費、郵送料の値上げ等により年々上昇し、ここ数年は支出が収入を上回り予備費が減少しております。そのため、2026年度より登録されたメールアドレスに配信することが理事会および評議員会で承認されました。また、学部や同窓会よりタイムリーな情報を共有するために同窓生へ一斉メールを送信できるよう整備しております。つきましては、普段使用しているメールアドレスを下記の会員情報変更ページよりご登録ください。2025年2月1日に「千葉大学看護学部創立50周年記念事業のご案内とご協力のお願い」という件名のメールを送信しております。このメールが届いていない方はメールアドレスが登録されておきませんので、希望されるメールアドレスをご登録ください。

会員情報に変更がない方はご連絡不要です。会員情報に変更がある方は、できるだけWEBページで、それが難しい場合には個人票で会員情報の変更をお願い致します。また、「近況報告」ご希望の方、総会について「非承諾」・ご意見のある方も、**6月末日まで**にご登録をお願い致します。WEBページでは一年中、会員情報の変更が可能です。

会員情報に変更がありましたら、WEBページにより必ず変更してください。

会員情報は、同窓会からのあらゆる連絡（たよりの配信など）のために使用しております。また、**卒業生・修了生の現在の活動状況を知る重要かつ唯一の資料**となっておりますので、必ず会員情報の変更をお願い申し上げます。

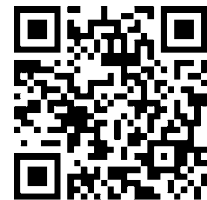
〈WEBページによる会員情報変更、近況報告、総会へのご意見登録方法〉

<https://ours1.net/chiba-univ.nursing/> にアクセスします。

右のQRコードからでもアクセス可能です。

ID: chiba-univ.nursing パスワード: dosokai

「登録情報変更あり」をクリックして内容を入力し送信してください。
ご自分のメールアドレスにも確認メールが届きます。近況報告や総会へのご意見は「登録情報変更なし」をクリックし、ご登録ください。



会員情報更新・変更
WEBページ QRコード

〈個人票による会員情報変更、近況報告、総会へのご意見登録方法〉

個人票による会員情報等の変更は今年度までになります。次年度以降はWEBページよりご登録をお願い致します。変更・訂正事項記入欄に修正内容を、近況報告や総会へのご意見をご記入ください。

変更方法に関する注意点

☆現在学生の方は最終学歴の「学校名」の欄に学校名を記し、（在学中）とご記載ください。勤務を続けたまま学生をされている方（科目等履修も含む）は、勤務状況と学校名の両方のご記載をお願い致します。

！名簿の情報流出にご注意ください！

同窓会では、皆さまから集めた個人情報厳重に保管しており、こちらから個人情報が流出することは一切ありません。名簿発行後に情報が流出したと考えられる事例が報告されております。皆さまのお手元にある名簿の管理については充分にご注意いただきますようお願いいたします。古くなった名簿を破棄する場合には裁断（シュレッダー）するなどしてデータが万が一にも流出しないよう管理の徹底をお願いいたします。

令和7年度 大学院看護学研究院 教員紹介

研究部門	講 座	教 授	准教授	講 師	助 教	特任教員・技術職員
先端実践看護学	高度実践看護学	富岡 晶子 眞嶋 朋子 増島 麻里子 酒井 郁子	佐藤 奈保	小川 俊子	楠 潤子 佐野 元洋 佐伯 昌俊	(技術専門職員) 西尾 淳子 (特任助教) 田中 優子 (特任講師) 田崎 牧子 (特任研究員) 佐藤 睦 (国際高等研究基幹 特任助教) 依田 智未 (特命助教) 山崎 友宏 (特任研究員) カスノフ ダビッド
	高齢社会実践看護学	五十嵐 歩	黒田 久美子		佐々木ちひろ 高岡 茉奈美	(特任教授) 正木 治恵 (特任助教) 石井 彩 (特任講師) 山崎 由利亜
生活創成看護学	健康増進看護学	大内 基司 前原 邦江 池崎 澄江		雨宮 歩	木村 佳代子 遠山 房絵	(特任助教) 田原 裕希恵 (特任助教) 梅原 瑞幾 (特任研究員) 前田 芙美 (特任教授) 森 恵美 (特任助教) 大和田 達代 (特任研究員) 山田 博美
	地域創成看護学	田上 美千佳 石丸 美奈 石橋 みゆき 諏訪 さゆり	 飯田 貴映子		鈴木 美央 坂井 文乃	(国際高等研究基幹 特任助教) 佐藤 太一 (特任助教) 吉田 靖代 (特任助教) 犬山 彩乃 (特任研究員) 上元 達仁 (特任助教) 周 璐 (特任助教) 増田 文月
文化創成看護学	文化看護学		斉藤 しのぶ	飛世 真理子	ニャマガオ アモステイナシ	(特任研究員) 山岸 仁美
	専門職育成学	中山 登志子			齊藤 可紗 植田 満美子	(特任准教授) 下井 俊典 (特任講師) 孫 佳茹 (特任助教) 辻野 拓也
	看護政策・管理学	和住 淑子 横田 慎一郎	錢 淑君 杉田 由加里	飯野 理恵		(特任教授) 島田 陽子

附属センター

看護実践・教育・ 研究共創センター	センター長 (和住 淑子)				(特任講師) 山崎 由利亜
専門職連携教育 研究センター	センター長 (諏訪 さゆり)	(特任准教授) (下井 俊典)	(特任講師) (孫 佳茹)		

* 下線…正会員